令和7年度 北斗市立浜分中学校 学校経営方針

1. 教育の現状と課題

中学校学習指導要領では、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、子どもたちが夢や希望を持ち、様々な困難を乗り越え、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の創り手として成長していくことができるよう「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すとしている。学習指導要領等が、学校、家庭、地域の関係者で幅広く共有され、連携・協働するために活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう、各学校においての教育内容の改善・充実にむけた「カリキュラム・マネジメント」の実現が強く求められている。

一方、変化が激しく先行き不透明な時代の中で子どもたちを取り巻く状況は複雑化、多様化し、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力・自己判断能力等の成長および心身の健康等に大きな影響を及ぼしている。

この様な時代に、地域・保護者から求められる教育課題は子ども一人一人の「確かな学力の育成と、その基盤となる豊かな心、健やかな体の育成」であり、「信頼される学校づくり」である。また、時代の変化に対応した「令和の日本型学校教育」の姿が示された。これらを踏まえ、学校は、生徒に「生きる力」を身につけさせるため、地域に根差した体験的な活動や自ら課題を求めて主体的、自律的に取り組む学習活動等を通し、知・徳・体の調和のとれた教育の推進と、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるための「地学協働」による教育を推進していかなければならない。

2. 本校の現状と課題

本校は、昭和25年4月に上磯町立上磯中学校浜分分校として2学級編成で発足し、昭和27年4月に6学級の上磯町立浜分中学校として独立した。以来、65年間にわたり歴史と伝統を積み重ねてきたが、平成18年2月1日の、大野町と上磯町の合併に伴い「北斗市立浜分中学校」と改称し、新たなスタートを切った。

生徒数の増加や施設の老朽化が進んだことから、平成23年度より新校舎改築工事が始まり、平成24年11月外構工事等の全てが終了した。

家庭環境としては、函館市及び近隣に勤務する保護者が多く、新たに校区へ移り住む家庭が増加し、保護者同士の関係の希薄さや、学校へ足を運ぶ保護者の固定化が進んでいる。また、ここ数年の「地学協働体制」の確立を目指した学校の取組への理解促進などにより、保護者の学校教育への関心は高まり、学校へ寄せる期待も大きくなってきている。

おおむねの生徒は基本的な生活習慣が確立され、節度ある行動をとることができる反面、自分自身で将来を見通して、現状を判断し次の行動へ移す、主体的なたくましさに欠ける。また、校区内外の商業施設が函館市を含めた他校生徒の交遊の場となっている現状や情報機器等の使用による問題等、校外生活については楽観視することなく、保護者や地域、関係諸機関との連携を密にしながら諸問題へ対応する必要がある。さらに、「情緒面の不安や混乱」「家庭環境をめぐる問題」「人間関係づくりの困難さ」等原因が不透明な理由で登校できなくなり、通常の学校生活を送れなくなっている生徒が増加し、継続的・組織的な対応が必要不可欠である。学習面においては、進路意識や向上心が旺盛で意欲的に学びに向かう生徒と、意欲が低下傾向にあり学びに向き合うことができない生徒に大別される。生徒の個性や特性に寄り添いながら学習への意欲化を目指す授業構築や学習指導の在り方が大きな課題となっている。併せて、家庭生活における情報機器等の使用時間や使用方法、さらに「健康三原則（食事・睡眠・適度な運動）」の確立についても大きな課題がある。

3. 学校経営の方針

(1) 経営の理念

学校教育においては、変化が激しく予測が難しい社会におけるウェルビーイングの実現、そして持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成を目指して、生きて働く知識・技能の習得や未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成すること、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養が求められている。さらに、いじめ・不登校・問題行動等にとどまらず、子どもの内面に起因する様々な問題への対応、生命や人権に対する意識や態度、社会生活に必要な規範意識、そして豊かな人間性やたくましい心身の育成にも取り組んでいかなければならない。そこで、本校の基盤となる経営の理念を「共感的で公平性の高い人間関係づくり」

とする。生徒と教師、生徒同士、教師同士また教師と保護者等、学校と関わりのある全ての関係者が多様な価値観を理解し認め合い、共感的かつ高い公平性のもとに結ばれた信頼関係があることこそ、教育が行われる上で最高の環境と言える。そして、その関係づくりを極め、教育の本質にせまろうと努力し続けることがウェルビーイングの実現に必要な不可欠であると信じるからである。

令和7年度は「ジリツ（自律・自立）」と「協働」をキーワードに、生徒にも教職員にも保護者にも心理的安全性が適切に保障され、同じベクトルの向きで共感し合い、公平性の高い人間関係を築きながら学校と地域社会とが協働して新たな価値を生み出し、子どもたちに求められる資質・能力を育成することに重点を置く。「地域の子どもは地域で育てる」という考え方を基盤とし、地域との対話を重視して、本物に触れる体験活動の創出と教科等横断的な学習で身に付けた力を自律的に活用する態度の育成を目指す。今教師に求められているのは、「子どものやる気を引き出し、可能性を伸ばす」こと。言わば子どもの生涯を通じた課題解決への探究心と主体的な学びへの意欲に火をつけ、子どもの社会的自立を支援することである。これらの実践には、子どもたちにとって最大の教育資源である教師が学び続ける姿を自ら示すことが何より重要である。「評論家たるな、実践家たれ」を合言葉に、校長のリーダーシップの下、熱意ある教職員と地域住民が「信頼できる大人」となり、総力をあげてチーム学校を磨き上げ、課題に果敢に挑戦する学校づくりを進める。

(2) 教育理念

【こんな学校に】（活気・躍動・共感・意欲・誇り・発信・感動・連携・協働・変化）

- ①生徒にとって、自尊感情が守られ、できた喜びや感動を味わうことのできる活気ある学校
- ②保護者・地域にとって、信頼関係で結ばれ、安心して子どもを通わせられる学校
- ③教職員にとって、変化に柔軟に対応し、心を一つにして働くことのできる学校

【こんな教師に】（熱意・信頼・工夫・理解・健康・謙虚・専門性・人間性・多様性）

- ①服務規律を遵守し、心身ともに健康で信頼される教師
- ②教育の専門職として常に謙虚な姿勢をもち、工夫・研鑽に努め、学び続ける教師
- ③豊かな感性や情操、教養をもち、子どもの心に火をつける、人間として魅力ある教師

【こんな教育環境に】（安心・安全・気品・美化・協調・対話・心理的安全性）

- ①安心して生活や学習ができる、安全で清潔な環境
- ②対話が重視され、生徒が自己の存在感を見つけ出し、失敗を恐れずに表現できる環境
- ③感謝の心、思いやりの心に満ち、心理的安全性が保たれた環境

4. 学校教育目標

知： 柔軟な発想を生かし 自ら進んで学び続けよう

徳： あたたかな心をもち 他と協働して高め合おう

※令和7年4月1日制定

体： 力強く大地をふみしめ 真の健康を追求しよう

5. 重点教育目標と育てたい生徒像

重点教育目標 “個性を磨き、ジリツ的・協働的に自己実現へ向かう力の育成”

令和7年度北斗市教育行政執行方針にある「社会で活躍する力を育む教育活動の推進」と「誰一人取り残さない教育の推進」及び本校生徒の実態を踏まえ、変化が激しい未来を生きるための資質・能力を身につけるには、自己と他者の幸福追求のバランスをとって、自律的かつ自立的に課題解決に向かう力の育成が大切である。また、第一に子どもたち一人一人が自分の「個性」（いわゆる自分らしさや自分の強み等）をよく知ること、その上で、学校内外の教育活動にある自分を磨くためのヒントやきっかけを生かし、①自らの粘り強さを発揮して主体的に自己研鑽に励むことや、②「個性は集団の中でこそ磨かれる」という考え方を重視しながら互いの個性を認め合い、他者と協働して高め合うところまでを目指すことを示す。「ジリツ的」とは、自律と自立の両方を示し、自ら考え、正しく判断し、自律的に行動できる力やメタ認知能力の向上、さらには社会的自立を目指すところを意味している。また、「協働的」とは、心理的安全性のもとに、高いコミュニケーション能力を発揮して地域を含めた多様な他者と協働し、新たな価値の創造とともに自己実現に向かうことを目標としている。

育てたい生徒像 “知・徳・体の調和のとれた生徒”

【知】【徳】【体】の3つはそれぞれが独立しているものではなく、密接に関係し合っている。特に【体】は【知】や【徳】の土台となるものでありいずれにも影響を及ぼす重要な分野としておさえない。

6. 経営の重点

- (1) 学ぶ立場に寄り添った、特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善を図る。
 - 学習者が主体となり、わかった・できたが実感でき授業の構築による学びに向かう姿勢の高揚
 - 個別最適な学びと協働的な学びの往還による生きて働く知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成
 - 教育効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの推進と一人一端末 PC の有効活用
- (2) 望ましい人間関係と豊かな心を育み、自己実現をめざす生徒指導の充実を図る。
 - 共感的で公平性の高い人間関係を基盤とし、子どもの自尊感情を守る温かさと厳しさのバランスが取れた指導の確立
 - 生徒指導の機能を活かし、自己肯定感・自己有用感を培う居場所の確立
 - 学校、家庭の理解と信頼関係確立による連携強化（生徒の心、親の心の把握と理解）
- (3) 研修活動の充実を図り、教職員としての資質・能力の向上を図る。
 - 生徒の課題に対応した実践的指導力を高める校内研修の充実
 - 生徒による授業評価を活用した「わかった・できたを実感する授業」の検証と構築
 - 校外研修への積極的な参加と校内への還元による学校全体の力量形成
- (4) 教師の個性を生かし、職員間の心理的安全性を基盤にした機能的な組織運営を図る。
 - 教職員の気づき・アイデアを活かした、経営参画と協働意識の高揚
 - 担当責任を明確にした、協働体制による計画的・効率的な校務運営
 - 共通理解・共通行動を基盤とした、「確認・連絡・報告」の徹底
- (5) 学校・家庭・地域相互の連携により、「地域とともにある学校づくり」を図る。
 - 学校だより・ホームページ・学校評議員・学校運営協議会・PTA役員等を活用した、学校・地域双方方向への情報発信及び受信
 - 教育課程を介して地域との絆を深める地域環境・人材の積極的な授業への活用。土曜プログラム（土曜授業）の実施方法や体験的活動内容の一層の工夫
 - 「浜分小中連携委員会」の活動内容の検討と充実
 - 「浜分地区子どもをすこやかに育てる会」の充実と連携
 - 「浜分小・中学校地域連絡協議会」と「学校運営協議会」による CS の運営と充実
- (6) 豊かな情操を育てる教育環境の創造を図る。
 - 校舎内外の美化と安全で清潔感のある学校環境の確立
 - 学校文化を育む言語環境、掲示環境、放送環境の整備・充実
 - 挨拶・言葉遣い・対応など、最大の教育環境である教師自身の模範的言動の確立
- (7) 合理的・効果的な学校事務の推進を図る。
 - 学校予算の計画的、効果的な執行
 - 各種文書の整備と適切な保管
- (8) 学校における働き方改革の推進に努める。
 - 「教育者」としての使命感や幸福感に満ちた自主的・自発的・創造的な業務に費やす時間を確保するための業務内容の点検・削減・再構築（Road の活用・C4th の活用・教育DX の推進）
 - 「北海道の部活動の在り方に関する方針」に則った部活動の実施と地域移行に向けた取組の推進
 - 柔軟でフレキシブルな勤務割振の変更等各種制度の活用
 - 定時退勤日・学校閉庁日の設定
 - 学校運営協議会での熟議、および保護者や地域住民等への情報発信と理解促進

7. 指導の重点

- (1) 教科指導：「主体的・対話的で深い学び」を進め学びに向かう姿勢の涵養を図る教科指導
 - 学びに向かう姿勢を高めるガイダンス機能とカウンセリング機能の導入
 - 指導と評価の一体化を踏まえた指導計画（シラバス）の作成と実施
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が往還する授業の展開と ICT を活用した指導方法の工夫・実践
 - 生徒による授業評価を活かした授業改善サイクルの実行
 - 指導方法工夫改善加配・補助教諭・退職者人材（数学）及び学習支援員の効果的な活用による学習理解の推進
 - 家庭学習習慣の確立に向け、子どものやる気に火をつける宿題や課題提示の工夫
 - 放課後（Hama なび Day）や長期休業中の学習会における理解不足生徒への学習支援
 - チャレンジテスト等を活用した知識・技能の習得、活用する力の育成
- (2) 道徳教育：自立した人間として他者とよりよく生きるための道徳性を育む道徳教育
 - 道徳科を要として、教育活動全体を通して組織的に展開する。
 - 各道徳的諸価値の理解を通して、のぞましい道徳性と実践力の育成

- 道徳的実践力を発揮する場の設定と評価の工夫
- 道徳教育推進教師を中心とした道徳科の指導方法・評価の工夫・改善
- (3) **特別活動：望ましい集団活動を通して自主的・実践的な態度を育てる特別活動**
 - 地域の教育資源を生かした社会的・奉仕的な体験活動の推進
 - よりよい集団生活を目指した、学級活動の計画的実施と支援の充実
 - 「自治の精神」を触発させる、自主的・実践的生徒会活動の推進
- (4) **総合的な学習の時間：**
カリキュラム・マネジメントの要として自主的、創造的に課題解決に取り組む態度を育てる総合的な学習の時間
 - より大きな社会課題に目を向けさせ、学び考え解決する力を育む創造的活動の推進
 - 学ぶ喜び、知る喜びを体得させ、ふるさとの良さに気づく生徒の育成
 - 体験的な活動や調査、発表や討論など多様な活動と実践の場の用意
- (5) **生徒指導：人間的な触れ合いを深め、「自律」と「自立」を育む発達支持的生徒指導**
 - 全教職員による共通理解と共通行動を前提とした生徒指導体制の確立
 - 共感的で公平性の高い人間関係を基盤とした、教師と生徒、生徒間の相互理解と連帯感の育成
 - 校内外における基本的生活習慣の確立と安全指導の徹底
 - 生徒の立場を尊重した教育相談活動や SOS の出し方に関する教育の充実と心の居場所を保障する学校生活の確立
 - 小学校、PTA、地域関係機関と連携した健全教育の推進
 - 児童生徒支援加配の効果的な活用と校内組織化を図った指導・支援体制の充実
- (6) **進路指導・キャリア教育：**
自らの在り方、生き方を考え、主体的に自己実現の道を切り開く進路指導
 - 学年の発達段階に応じた、進路指導全体計画の作成と実践
 - 個性・適性の自己理解と汎用的能力の育成
 - 適切な情報の収集・提供と、自己実現への意欲を支援する進路相談の充実
 - 「キャリア・パスポート」を活用した新たな学習や生活への意欲付け
- (7) **健康・安全指導：生命を尊重し、自らを鍛え、たくましく生きる健康・安全指導**
 - 安全で健康な生活を営むための体力の向上及び感染症対応等における自己管理能力の育成
 - 性・薬物・通信機器（SNS）・不審者等へ正しく対応できる態度の育成
 - 望ましい生活習慣を育成する給食指導、アレルギー対応等と食育の充実
 - 家庭や地域と連携した健康安全指導の推進（1日防災学校の実施、健康の三原則の重視）
- (8) **特別支援教育：生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育**
 - 一人一人の特性や教育的ニーズを踏まえた個別の指導計画の確立
 - 校内支援委員会による教育支援が必要と思われる生徒の把握と、適切な支援体制の確立
 - コーディネーターによる効果的な支援体制の確立や外部関係機関と連携した支援や指導の充実
- (9) **学校図書館：読書活動を推進する学校図書館**
 - 生徒の心や興味関心を醸成する学校図書の充実
 - 読書習慣・読書意欲を喚起させる学校図書館運営の工夫と充実
- (10) **学年・学級経営：発達支持的生徒指導の基盤となる学年・学級経営の充実**
 - 生徒の居場所を保障する学年・学級経営の推進
 - 学級の課題を担任が抱え込むことなく解決する学年協働体制（学年経営）の確立
 - 共感的で公平性の高い人間関係の確立による、自己肯定感・自己有用感の育成
- (11) **学校事務：合理的・効率的な学校事務に努める**
 - 重点教育目標達成のための学校予算の計画的、効果的な執行
 - 各種文書の適切な整備と保管およびデータ管理
- (12) **部活動：個性の伸長と豊かな社会性及び心身の逞しさを育む部活動の活性化**
 - 個性を伸ばし、集団的な生活力及び文化意識の高揚、健康・体力の保持増進
 - 全教員による指導・協働体制の確立
 - 生徒の自主的な活動及び意欲・能力を育む指導の工夫
 - 「北海道の部活動の在り方に関する指針」に則った活動の推進と工夫
 - 学校部活動の地域展開（地域全体で連携して行う）に向けた取組の推進